

児童デイ便り



7月現在、35℃を超える日が度々あり、とても暑い日が続いています。子ども達も外遊びにもなかなか行けない日もあり、中には残念そうな顔をする子もいます。しかし、そんな暑い中でも楽しいイベントもいくつかありました。その一つに、まごころきらりと、まごころレフト・ライト合同での音楽教室があります。

普段はレフト・ライトだけで行っていたのですが、今回まごころきらりから4名の子ども達とスタッフがレフト・ライトの子ども達と一緒に音楽教室を楽しみました。

ピアノの音に合わせて歌を歌ったり、みんなの前に立って踊ったりする子もおり、とても楽しんでいる子がたくさんいました。

きらりの子ども達は歩行が困難な子が多く、移動が大変ではありましたが、子ども達の笑顔が多く見られ安心しました。

初めて合同で音楽教室を行いました、大成功だったのではないかと思います。これを機にまた、まごころきらりとまごころレフト・ライト合同でのイベントを企画し、子ども達が楽しんでくれるようなイベントを開催出来たらいいなと思っています。(野田)



相談日記

夏眠欲との闘いの夏

この原稿を書いているのは7月中旬です。猛暑が続いたかと思えば、梅雨の豪雨災害など目を覆いたくなる映像がTVから流れてきております。皆さまは心身共にへとへとになっていませんか？私(中山)は先日、扁桃炎になり、高熱にうなされ、1日ほどお休みを頂きました。(働きすぎでしょうか・・・?)皆さまにおかれましても、心身ともにご自愛をお願いするとともに、暑中見舞い申し上げます。

さて、地球上には夏の暑さから身を守るために夏眠をする動植物がいるようです。そんな動植物を見習って、人間社会にも今こそ夏眠という制度を作るべきではないか、と思うのです。熱中症での死傷者数は1000人前後と由々しき社会問題であると思います。人類社会はこの夏の暑さへの敗北を認め、涼しい部屋に引きこもるべきだと思うのです。頑張っ外に出て体調を崩す必要は無いのです！

と、引きこもり願望の強い私はそう思うのですが、皆さんはいかが思いますでしょうか？異論反論受け付けますので、よろしければお話をお聞かせください。話をすることで見方が広がり、お互いのことを分かり合えます。また、話し合う過程自体が心理療法となります。ぜひ、私の意見に賛同される方や、夏の魅力を私にご教授くださる心優しい方がいらっしやいましたら、ディベート(無批判・平和的な話し合いでお願いします)しましょう！

相談支援事業所まごころリンク(中山)

私のフォト



元気に咲く向日葵(ひまわり)はエネルギーに溢れておりポジティブな気持ちになります!!

ケアマネジャーの目

障害福祉から介護保険への移行について

障害福祉サービスを利用されていた方も65歳の誕生日を迎えると介護保険サービスが優先となり移行しなければならなくなります。例えば、訪問介護サービスでは、障害福祉は月の受給時間が決まっており、その時間内でヘルパーさんの利用が出来ました。介護保険では、要介護の認定が出た方は、月の利用できる点数内での利用になり、介護度1~5によって使える点数が違ってきます。要支援の場合も週に1~2回(要支援2は週1~3回)と介護計画に基づいて必要な回数の利用しかできなくなります。

障害福祉サービスでは応能負担で利用者負担がなかった方も、介護保険では原則1割は負担となります。ただ、介護保険にはない障害者固有のサービスは、そのまま継続して利用が可能となっており、視覚障害者の方の為の同行援護などは、介護保険で代わりとなるものがない為、65歳以降も利用できます。

以前から、病院での診察室での時間はサービス時間に含まれない、と決まっていた。今年度から、病院内での付き添いも必要な病院だけで行ない、通院前に院内の付き添いが必要かどうか確認するように、と市役所の方からお達しがたようです。但し、病院スタッフだけでは対応できない場合、同行援護による病院内の付き添いが可能です。病院への通院介助や受診の受付代行は当然として、院内介助も視覚障害者にとって、非常に重要なサービスです。眼が不自由で不安であり、常に危険と隣り合わせの状態であることは、自分がもしその立場だったら、と想像してもらえば分かると思います。必要なサービスが当たり前のサービスとして今後も利用できるよう、一宮市に期待します。



～耳より情報～

ボランティアフェスティバル2024

日時：R6年10月20日(日)

10時~15時

場所：一宮スポーツ文化センター

※一宮まごころは2階のブースでサロンの『手織り体験』と『参加ゲーム』のコーナーを開設します。お気軽にご参加ください！



～知っておきたいヘルパーの知識～

「熱中症特別警戒アラート」

広域的に過去に例のない危険な暑さとなり、人の健康に係る重大な被害が生じるおそれが出ています！

- ・他人事と考えず暑さから身を守りましょう。
- ・室内等のエアコン等により、涼しい環境で過ごしましょう。
- ・こまめな休憩や水分・塩分補給。
- ・高齢者・乳幼児等の方は特に注意し、周囲の方も声掛けしましょう。
- ・涼しい環境以外では、運動等を中止しましょう。
- ・「すぐに病院に行った方がよいか」「救急車を呼ぶべきか」悩んだりしたら、まず電話で「#7199」をプッシュすることにより、医師・看護師・トレーニングを受けた相談員が聞き取り判断します。

訪問時、利用者さんの体調を聞き取り、危険なことにならないようにしましょう。移動時には、必ず水分補給をし、皆で暑い夏を乗り切りましょう！

